



コロナ相場に不安を感じる お客様からの質問に どう答えるか

木内清章 産業能率大学講師

お客様からのコロナ相場に関する質問を挙げ、その回答方法を見ていく。

質問 1

今は株価が不安定だけど
このような状況は
いつまで続くの？



新

型コロナウイルス感染の影響による経済停滞は、当初の予想をはるかに上回り深刻化している。株式市場をはじめとするマーケットは、3月に世界的なリスク資産換金の動きで暴落した後、多少の戻りを見せたものの、中期的に見れば不透明感が拭えないと考えることが保守的であろう。

本質問に対する回答のポイント
「夏ごろまでは続くと言われている」「日経平均株価が1万5000円を切ることはないでしょう」といった節目を伝えたいことである。

今後、日経平均株価や為替相場が、心理的な節目といわ

このように回答しよう

株価はいつまで不安定な状況が続くかな？ 今年いっぱいは大丈夫かな？



いつまで続くかは明確には申し上げられませんが、目安として「失業関連の数値が改善するか」「企業の決算見通しが改善するか」に着目していただければと思います



雇用統計や企業の業績に注目するということだね



はい、そうした数値が良くなってくれば、近いタイミングで株価が安定、上昇に転じる可能性も高まるといわれています



目安となる指標を紹介

2つ目は、市場が重視する指標を目安としてもらうことである。

例えば、雇用統計（失業率や失業保険申請数）や消費者物価指数、あるいは四半期ごとの企業業績見通しが参考になると伝えよう。こうした指標が回復してくれば、当然、株価も上昇する。そのことを伝えてお客様自身に指標に注目してもらおう。

質問 2

基準価額が下がっているが
このまま投資信託を
保有し続けて大丈夫？



今

回、コロナショックでマーケットが下落しても、お客様の換金はそれほど多くないという。しかし、そうしたお客様が納得して保有し続けているとは限らない。むしろ不安を抱えながら、どうしたらよいか分からずとてあえず保有しているケースも少なくないだろう。

その意味で、本質問に対する回答はとても重要である。

マーケットが再び暴落局面を迎えるか、また新型コロナウイルス発生前の水準にいつ回復するかは、誰にも分からないし、推察を重ねても仕方がない。つまり保有し続けるか解約するかは、金融機関の担当者はもちろん、お客様もそう簡単

に答えを出すことができないだろう。

そこで、お客様の財産状況を踏まえて対応したい。まずは、お客様の資産全体におけるリスク資産の割合を確認してみよう。

仮に、リスク資産が1割程度であれば、それが元本割れしたとしても資産の9割は残る。このリスクを享受できるか、先々の回復に期待する対応を取れるかを質問してみよう。もし1割であっても資産を失うことのためにいろいろなら、一部換金を検討してみよう。

お客様のリスク資産の割合が低ければ、追加買増しを促すことも選択肢になるだろう。

このように回答しよう

基準価額が下がっているけど、このまま投資信託を保有し続けて大丈夫かしら？



お客様の資産全体に占めるリスク資産の割合は1割です。資産全体でみれば下落率は抑えられています。ただ、1割を失う可能性はありますが、そのことに対してはどうお考えですか



元本割れの可能性は分かっていたし、それくらいは大丈夫よ



それでしたら、保有継続なさってもよいと思います



そうね、いま換金しなくてもいいわ



リスク資産が多ければ 比率を下げることを検討

一方で、お客様のリスク資産の割合が3割以上など高い

う。基準価額が下がっている状態なら、その分、口数を多く購入することができる。財産価値は「ファンドの基準価額×保有口数」で決まる。基準価額が新型コロナウイルス発生前まで回復しなくても、口数が増えていけば、財産価値を高めることはできる。

いのであれば、長期的な低迷に備えて比率を下げる対応が必要かどうかを質問する。お客様に相当な期待感がないのであれば、やはり一部換金を検討してもらう必要があるだろう。

また、毎月分配型ファンドの保有を継続する場合、分配金を再投資型に変更することを検討してもらうのもよい。これも、基準価額が低いときに購入でき、保有口数を増やせる効果がある。